

2025年度 教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	4人	0人	3人	3人	10人	6人	9人	0人	20人	7.1人	
計	4人	0人	3人	3人	10人	6人	9人	0人	20人	—	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤	安全学	15	橘幸子 他	兼任
		教育原理	15	趙雪梅	兼任
		教育方法論	15	趙雪梅	兼任
		統計学	15	塩見格一	兼任
		情報科学	15	塩見格一	兼任
		人間工学	15	塩見格一	兼任
基礎	人間と生活	心理学	15	青井利哉	兼任
		生命倫理	15	高木祐介	兼任
		英語Ⅰ（社会と文化）	15	浅井純子	兼任
		英語Ⅱ（健康と医療）	15	Lorraine Sakka	兼任
		英語Ⅲ（総合演習）	15	浅井純子	兼任
		英会話（医療系英会話）	15	浅井純子	兼任
		スポーツ医学	15	林浩嗣	専任
		スポーツ栄養学	8	鳴瀬碧	兼任
		体育Ⅰ	8	片岡雅彦	兼任
		体育Ⅱ	15	片岡雅彦	兼任
基礎	社会の理解	フレッシュャーズセミナーⅠ	15	堀秀昭	兼任
		フレッシュャーズセミナーⅡ	15	堀秀昭 他	専任・兼任
		人間関係論	15	青井利哉	兼任
		日本国憲法	15	横井正信	兼任
		コーチング論	15	長谷川優樹	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学総論	15	飯野哲	兼任
		解剖学演習Ⅰ	30	鳥越甲順	兼任
		解剖学演習Ⅱ	30	鳥越甲順	兼任
		解剖学演習Ⅲ	15	鳥越甲順	兼任
		生理学	15	猪口徳一	兼任
		生理学演習	15	猪口徳一	兼任
		運動学	30	村田寛一郎	兼任

		運動学演習(バイオメカニクス)	15	石田圭二 他	専任
		人間発達学	15	青井利哉 他	兼担
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	15	青井利哉	兼担
		内科学Ⅰ	15	供田文宏	兼担
		内科学Ⅱ	15	供田文宏 他	兼担
		臨床神経学	15	佐藤万美子	兼担
		臨床神経学演習	15	佐藤万美子	兼担
		整形外科学	15	大橋義徳	兼任
		スポーツ整形外科	15	小坂正裕	兼任
		精神医学	15	小俣直人	兼担
		病理学	8	供田文宏	兼担
		リハビリテーション医学 診断学	8	林浩嗣	専任
		リハビリテーション医学 治療学	8	林浩嗣	専任
		臨床栄養学	8	中島有紀	兼任
		薬理学	8	村松郁延	兼任
		救急処置	15	菅野智也	兼担
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	8	堀秀昭	兼担
		保健医療論	8	山口明夫	兼担
		チーム医療論	8	浅井智恵美	兼任
		環境と健康	8	出口洋二	兼任
		ナラティブ概論	8	石田圭二	専任
		社会保障制度	8	堀秀昭	兼担
		スポーツ内科学	15	林浩嗣	専任
		トレーニング科学Ⅱ	15	菅野智也	兼担
専門	基礎作業療法学	作業療法概論	15	石田圭二 他	専任
		研究法	15	酒井涼	専任
		研究法演習	15	石田圭二 他	専任
		作業療法研究	45	石田圭二 他	専任
		作業分析学	15	佐々木孝次 他	専任
		作業技法(基礎)	15	蓑輪千帆	専任
		作業技法(編み物・陶芸)	15	佐々木孝次	専任
		作業技法(革細工・籐細工)	15	酒井涼	専任

専門	作業療法管理学	作業療法管理学	15	石田圭二	専任
専門	作業療法評価学	作業療法評価学	15	石田圭二	専任
		身体機能評価学演習Ⅰ	8	熊谷のぞみ	専任
		身体機能評価学演習Ⅱ	8	佐々木孝次	専任
		心理社会機能評価学演習Ⅰ	8	下川幸蔵	専任
		心理社会機能評価学演習Ⅱ	8	川端香	専任
専門	作業療法治療学	作業治療学の基礎	8	石田圭二	専任
		身体障害作業療法学	15	石田圭二	専任
		身体障害作業療法学演習Ⅰ（脳血管障害・神経系疾患）	30	川端香 他	専任
		身体障害作業療法学演習Ⅱ（脊髄損傷・リウマチ）	15	佐々木孝次	専任
		身体障害作業療法学演習Ⅲ（骨折・切断・内部障害）	15	熊谷のぞみ 他	専任
		精神障害作業療法学	15	下川幸蔵	専任
		精神障害作業療法学演習Ⅰ（作業治療法）	15	下川幸蔵	専任
		精神障害作業療法学演習Ⅱ（臨床関係論）	15	下川幸蔵	専任
		発達障害作業療法学	15	蓑輪千帆	専任
		発達障害作業療法学演習	15	蓑輪千帆	専任
		高次脳機能障害学	15	川端香	専任
		老年期障害作業療法学	15	堀敦志	専任
		老年期障害作業療法学演習	15	堀敦志	専任
		日常生活活動学	15	熊谷のぞみ	専任
		日常生活活動学演習	15	蓑輪千帆	専任
		作業療法学演習	15	石田圭二 他	専任
		作業療法評価実習	45	石田圭二 他	専任
		作業療法治療実習	45	石田圭二 他	専任
		作業療法特論（基礎）	8	石田圭二	専任
		作業療法特論（身体障害）	8	川端香	専任
		作業療法特論（精神障害）	8	下川幸蔵	専任
		作業療法特論（発達障害）	8	蓑輪千帆	専任
		作業療法特論（老年期障害）	8	堀敦志	専任

専門	地域作業療法学	地域作業療法学	15	中島裕也 他	専任
		地域作業療法学演習	15	中島裕也	専任
		生活環境整備学演習	15	熊谷のぞみ 他	専任・兼任
専門	臨床実習	臨床見学実習Ⅰ	90時間	石田圭二 他	専任
		臨床見学実習Ⅱ	45時間	石田圭二 他	専任
		臨床評価実習	135時間	石田圭二 他	専任
		臨床実習Ⅰ	360時間	石田圭二 他	専任
		臨床実習Ⅱ	360時間	石田圭二 他	専任

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4

	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床教育者の教育のもと、作業療法が対象とする身体障害または精神障害の見学を行い、そこで行われている作業療法の目的、治療の実際、作業療法士の役割などを学習する	1年後期	臨床見学実習Ⅰ	1年後期
疾患の理解、評価計画、評価実施、問題点の列挙までの過程を学習する	2年後期	臨床評価実習	2年後期
評価過程(評価計画、評価実施、統合と解釈)に加え、目標設定、治療計画、治療実施の過程を実習する	3年後期	臨床実習Ⅰ	3年後期
臨床教育者の教育のもと、地域の施設等での見学を行い、そこで行われている作業療法の目的、治療の実際、作業療法士の役割などを学習する	3年後期	臨床見学実習Ⅱ	3年後期
評価過程(評価計画、評価実施、統合と解釈、目標設定)、治療計画、治療実施に加え、再評価を行い治療の再検討や効果判定について実習する	4年前期	臨床実習Ⅱ	4年前期

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3

	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	学長 山口明夫
組織の開催頻度	年6回程度
組織の取り組み内容	点検・評価項目および方法の設定ならびに変更 自己点検及び自己評価の実施 第三者評価実行委員会の設置と評価の実施 自己点検・評価報告書の作成 自己点検・評価結果の公表
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://www.fukui-hsu.ac.jp/about/data/ ）

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務会議
	委員構成等	学部長、リハビリテーション学科長（OT専攻長兼務）、看護学科長、PT専攻長、OT専攻長、教員3名、事務部長、事務員1名

	改善の仕組みの実際	毎年1月に作成したシラバスを適宜確認の上、授業科目担当者に修正依頼
--	-----------	-----------------------------------

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

2021年6月にリハビリテーション教育評価機構の評価を受審し、適合の評価を受けている。
 2023年3月に大学基準協会の大学基準に適合しているとの認定を頂いた。是正勧告1点、改善課題4点の指摘事項が
 付された毎年、自己点検・評価委員会で指摘事項の改善に向けた進捗状況が審議されており、2026年7月に改善報
 告書を提出予定である。